



## イギリス学校教育の近代化

市民革命期の動向や社会改革思想を研究することで、現代の「近代的」学校教育の根源にある価値観を見出し、学校教育改革の前提を確認しようとしています。

### 近代教育学の現状と復権

近代教育学の特徴として、社会の要求する方向に大人が子どもを陶冶する強制的役割と、遺伝や環境に依存しつつも子どもが自らの特性に応じて自己を創造する過程を大人はサポートしていくという援助的役割という2種類の機能を強調する点があります。後者の児童中心主義を打ち出した人物には諸説ありますが、18世紀フランスのルソーとする説が有力であり、ここに近代教育学の出発点を求める立場があります。ルソーはフランス革命期の思想家ですが、戦後日本は市民革命思想に近代思想の原点をステレオタイプに求めようとしていたという批判もありました。また、児童中心主義自体が共同体の衰退や「個人」主義の蔓延と共に昨今の「教育荒廃」の主因と目されることもあります。

私の関心は「近代化」思想自体が終焉を迎えているという指摘すらある中で、現代の学校教育システムを生み出してきた根源的価値観を見出し、少子化などに代表される社会変動を受ける格好で大きな改革を要求されている学校教育の歴史的前提を追求することにあります。

### イギリス近世史

世界史において内実型近代化のモデルとされてきたイギリスですが、本国で通説とされている伝統史学が成立したのは19世紀のことです。現在ではこの史学に対する批判を行い、近世史の再検討を指向する研究が盛んになり始めており、これを修正主義と呼んでいます。伝統史学に対する批判としては20世紀のマルクス主義史観もありましたが、修正主義の特徴は歴史を進歩主義で解釈することに一貫して批判的な態度を取ることにあります。

イギリス革命・アメリカ独立戦争・フランス革命は三大市民革命として通常世界史の教科書等に掲載されています。しかし修正主義は「イギリス革命」という用語自体に批判を加えて「内乱」と表現する傾向があります。修正主義的研究が最初に登場した1970年代にイギリスで労働党政権からサッチャーイズムへの大きな政策転換があったことは必ずしも無関係ではないと考えられます。このように研究史を追求することも歴史把握の一助となることがあるかと思えます。

### 授業での実践例

本校では社会科科目を担当しており、専門分野と直接の関係はありませんが、就任以来続けて「政治・経済」を毎年教えています。一般教養としての政治学や経済学も重要ですが、本校学生が技術者として社会人となった際に消費者として心得てもらいたい知識も多々あります。その一環として、クレジットカードを筆頭とする各種カードの利用法、中でも静かな社会問題ともなっているカード破産が起こる仕組みを実際に自分でシミュレートすることで仮体験してもらっています。他にも所得税・個人住民税の基礎的な算定法など、通常の高校レベルの社会科では表面的な知識の羅列になりがちな部位を具体的に体験することで、社会人養成の一助をなすことを目指しています。また、社会科系の各科目では提出任意の小論文形態レポートを学生に課しますが、提出された文章を原則として全部添削し、再提出させることで、学生が「現代社会で一般的に用いられている正しい日本語」を日常の友人間等での話し言葉とは別次元で使いこなせるようにすることを目標としています。

### 久保田 圭司

(KUBOTA Keiji)

一般科目 助教授  
教育学修士



1963年生まれ  
TEL 058-320-1292  
kubota@gifu-nct.ac.jp  
<http://www.gifu-nct.ac.jp/jinbun/kubota/index2.html>

#### キーワード

学校教育史、イギリス近世、市民革命、社会的機能科学・技術・教育相談分野  
近代教育学の歴史と今後  
高専生のための科学技術倫理  
共同研究希望分野  
思考・価値観形成の一環としての宗教  
現代人が要求される社会倫理  
千年王国論  
出前授業・公開講座テーマ  
・カード社会の消費者教育  
・青少年のためのやさしい直接税  
社会的活動等  
・名古屋大学教育史研究会元幹事